

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州なかがわ森林フェスティバル
事業主体 (連絡先)	信州なかがわ木の駅実行委員会 (中川村役場振興課耕地林務係)
事業区分	⑥ウ 森林づくりと林業の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	732,068円 (うち支援金: 572,000円)

事業内容

- ①木の駅実行委員を中心とした実行委員会組織
- ②村内外の木を扱う業者に声をかけ、木工体験や木工製品を肌で感じて貰い木に親しみを持ってもらえるようイベントを企画。
- ③手習い塾を開催し、のべ30名参加。
- ④フェスティバルでは丸太レースを開催し、林業について身近に感じてもらえるようにした。



【イベント当日写真】

事業効果

- ①昨年に引き続き毎月1回の実行委員会の開催と役員会を実施。
- ②当日は村内外から約600名が来場した。
- ③丸太レースは11チームが参加し、会場を沸かせた。
- ④村内外から個人を含め21店舗が出店し、木工作品や薪ストーブなど森林をテーマとしたテント市が開催された。
- ⑤飲食店ではシカを使用した豪快なジビエ料理も振る舞われ、野生鳥獣の有効活用について手応えを感じることも出来た。

【目標・ねらい】

- ①イベントの開催をとおして木の駅プロジェクトの周知と理解を含めて貰い、地域資源の有効活用と村内経済の活性化を図る。
- ②木工体験や安全講習会など気軽に参加出来るイベントを開催し、森林について身近に感じて貰う。

今後の取り組み

- ①実行委員会としても次回開催に向けて早々より協議を始め、今回の反省を踏まえた計画内容を企画していく。
- ②木の駅実行委員会が本格稼働して1年あまり経つが、まだまだ木の駅の活動が認知されていないと感じる場面がある。イベント開催だけでなく地道なバイオマスエネルギーの普及啓発活動を行っていく。
- ③木の駅事業の取組みの中で地域通貨の村内流通が挙げられるが、村内加盟店のさらなる増加を求めて活動していきたい。
- ④丸太レースは今回初めての取組みであったが、想像以上の反響があり手応えを感じた。元々姉妹都市の北海道中川町で実施しているレースを参考にしているが、今後は交流等も含め情報交換をしていきたい。

※自己評価【 A 】

【理由】

村内外から多数の来場者で会場が賑わい、木工体験や薪ストーブなど森林資源について身近に感じて貰う事が出来た。木質バイオマスエネルギーの利点についても広くPRすることができ、今後の木の駅プロジェクトの活動に弾みをつけていきたい。

ジビエ料理をイベントに取り込むことで、多くの人にジビエの魅力を感じて貰う事が出来た。森林整備だけでなく、有害鳥獣対策にも波及する事が出来た。